

二刀領談



下條正男

しもじょう・まさお 長野 期竹島問題研究会の座長を務
 県出身。国学院大学院博士 めた竹島研究の第一人者。23
 課程修了。1999年から拓 年3月まで本紙客員論説委員
 殖大教授を務め、2021年 を務めた。拓殖大名譽教授、
 3月末で退官。島根県の第5 島根県立大客員教授。75歳。

島根県の竹島を独島と呼び、自国領と主張する韓国は10月25日を「独島の日」としている。1900年のこの日、鬱陵島が鬱島郡に昇格した際に、郡の行政区域が「鬱陵全島と竹島、石島」と定められたが、その石島を独島と解釈したからだ。だが後述するように、石島は観音島(島項)のこと、独島ではない。

■無主の地を誤解

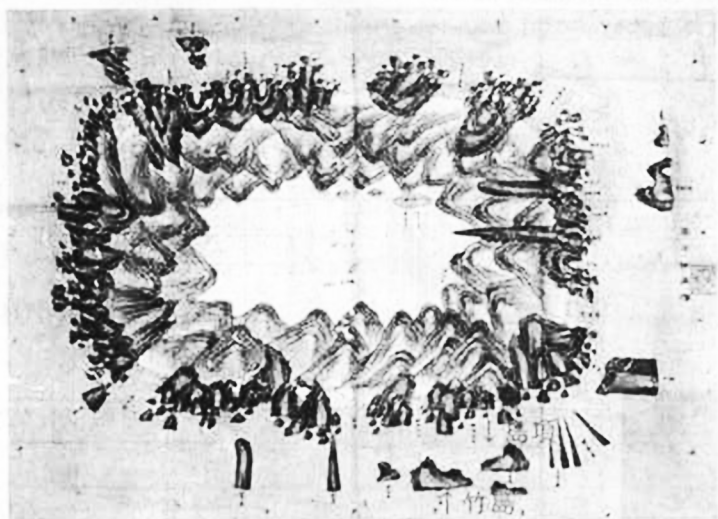
それを韓国政府の政策提言機関である「東北アジア歴史財団」では、10月25日を「独島の日」として毎年竹島関連の学術研究と広報活動に貢献した個人や団体を表彰してきた。

今年で16回目となる「独島学術賞」と「独島愛賞」には、故韓哲昊東国大学教授と日本の市民団体「竹島の日」を考え直す会」が選ばれた。

韓氏は『新撰地誌』(1886年)所収の『山陰山陽南海道之図』や『島根県地理小学』(87年)所収の『島根県管下隠岐國全図』に竹島が描かれていないので、竹島は日本領ではなく韓国領だったとするなど、一連の研究が評価されたという。

だが、竹島が隠岐島司の所管となるのは、1905年1月28日の閣議決定を経て、05年2月22日、「島根県告示第40号」が告示されたからである。それ以前の地図に竹島が描かれていないとしても当然である。当

「独島の日」の表彰



李奎遠が鬱陵島の属島を描いた「鬱陵島外図」

韓国側主張に根拠なし

時の竹島は、日本領でも韓国領でもなく「無主の地」だった。

■意見広告で批判

「独島愛賞」を受賞した「竹島の日」を考え直す会(趙吉夫代表。以下「直す会」)の活動も疑問である。「東北アジア歴史財団」

「独島を日本に知らせる運動連帯」「独島財団」などとの関係が密で、韓国側の主張を代弁してきたからだ。「直す会」は尹潽夏氏

を代表として大阪で発足し、2013年5月には「直す会」の久保井規夫氏や黒田伊彦氏が竹島に上陸して、韓国語で「独島は韓国の領土」と叫んで話題になった。

14年2月、尹氏は島根県

に「島根県知事に対する質問書『独島20問』」を提出したが、それは竹島の日条例撤廃を求め、行政訴訟を松江地裁に起こした韓国の「独島を日本に知らせる運動連帯」(以下、独島連)に同調したものだ。その独島連と直す会は13

年9月29日、大阪在日民団大阪支部の講堂で合同集会を開き、翌年2月22日、松江地裁に訴訟を起こす検討をしていたという。さらに独島連の裴三俊会長は13年5月2日付の韓国紙の中央日報に意見広告を2面にわたって掲載し、故川上健三氏と私を「極右学者」として、次のように批判していた。

「少数の人たちが独島の歴史をよく知らない日本人

の形状から韓国語音で「牛の項」と表記したものだった。その韓国語表記を漢語に直すと石島になり、独島ではないのである。当然、李奎遠が鬱陵島の属島を描いた『鬱陵島外図』には、独島が描かれていない。

■随時掲載■